岡山のとしょかん
岡山県図書館協会報
（第 141 号）

美作市立東粟倉図書館移転 OPEN!



［東粟倉公民館の外観］



［ロッカーを活用した書架］

美作市立勝田図書館移転 OPEN!

美作市立勝田図書館は、令和 8 年 4 月 19 日に勝田総合支所内から新しい「勝田公民館」へ移転しました。館内には、公民館の一角に書架スペース、キッズスペース、学習スペースが設けられています。仕切りのないオープンな空間となっており、公民館や隣接する「K-BASE パーク」に訪れた方にも気軽に立ち寄って利用いただけます。



［書架・学習スペース］

■施設の概要

令和 8 年 4 月 1 日、美作市立東粟倉図書館は、旧東粟倉幼稚園を改修した「東粟倉公民館」内へ移転オープンいたしました。

以前の 2 階から 1 階へとフロアが変わり、誰もが気軽に利用しやすい空間となりました。

館内は、幼稚園時代のロッカーを書架としてそのまま活用するなど、地域の方々にとって懐かしい思い出を感じられる工夫が施されています。また、レコードの所蔵もあり、音楽を聴きながらゆったりと過ごすことができます。

公民館と一体化したことで、地域の交流や文化活動の新たな拠点として機能しています。鳥のさえずりや川のせせらぎが聞こえる豊かな自然に囲まれた東粟倉図書館へ、ぜひお越しください。

【美作市立作東図書館　山本　昌代】



［キッズスペース］

公民館でのイベントや会議に参加される方々をはじめ、「K-BASE パーク」でバスケットボールやスケートボードなどを楽しまれる方、そのご家族まで、幅広い年齢層の方々がゆっくりとくつろぎながら過ごせる空間となっています。放課後の時間には、子どもたちの集う憩いの場所にもなっています。

【美作市立英田図書館　遠藤　絵美】

書架の間で眠る夜――「お泊り図書館」

「図書館に泊まって、一晩中、本を読んでみたい」ある小学生のこんな一言から、真庭市立中央図書館で「お泊り図書館」を開催しました（2024 年 9 月 13 日～14 日）。参加したのは、大人 14 人、子ども 10 人の計 24 人。うち親子・家族での参加は 5 組でした。

19 時の閉館とともにスタート。自己紹介や館内での過ごし方についての案内が終わると、参加者は寝袋やマット、枕などを持って館内をうろうろ。それぞれが、自分の寝床を探し始めました。市の危機管理課にも協力してもらい、災害用段ボールベッドと非常食のアルファ米を提供してもらいました。段ボールベッドは希望者が自分で組み立てました（終了後も捨てずに、外遊びやお絵描きのイベントで「大きな段ボール」として再利用しました）。

早々にお気に入りの書架のそばにつくった寝床に入って本を読む人。書架の間で寝転んで読む人。手芸本のコーナーで編み物をする人。段ボールを重ねて秘密基地をつくる子どももいました。飲食スペースでは、お菓子を食べたり、おしゃべりしたり、新聞の切り抜きを使った「コラージュ川柳」を楽しんだりする姿もありました。

21 時には、NHK ラジオ第 1「高橋源一郎の飛ぶ教室」に館長が電話で生出演し、参加者みんなでその様子を見守りました（番組の放送 200 回を記念して、これまで番組で紹介された本 200 冊も館内に展示しました）。

3 階建ての館内のうち、参加者に開放したのは 1 階と 2 階です。2 階児童室のキッズスペースだけは 22 時に消灯し、親子 2 組がそこで眠りました。それ以外のメインフロアは朝まで点灯し、「消灯時間」は設けませんでした。読みたい人は読み、眠くなった人は眠る。それぞれが自分のペースで夜の図書館を過ごしました。

朝 6 時に起床して、みんなでラジオ体操。その後、帰りの会をして解散しました。

参加者からは、「いつでも本が読める!!　しかも寝て読める!!」「非日常感がたまらない」、そして「満たされました。精神の回復、すさまじかったです」などの声が寄せられました。

なかでも印象的だったのは、小学生の女の子です。科学漫画や「かいけつゾロリ」が並ぶ本棚の間にベッドをつくり、「ここにある本、ぜ～んぶ、私の好きな本！」と言って、うれしそうに寝袋にくるまっていました。

飲食物は、アルコールを除いて持ち込み自由としました。また、市の危機管理課から提供してもらった非常食のアルファ米にお湯を入れ、みんなで食べました。

安全面では、図書館職員 4 人を男女 2 人ずつ配置しました。閉館後は出入口を施錠し、外に出る場合には職員に声をかけてもらうことにしました。夜間は職員が男女ペアとなり、22 時～2 時、2 時～6 時の交代制で見回りをしました。

「真庭市図書館みらい計画」では、本を借りるだけの場所ではなく、市民が集い、出会い、それぞれの「やってみたい」を持ち寄りながら、みんなでともにつくっていく場所として育てていくことを掲げています。今回も、市民ボランティア 4 人が、一緒に泊まってくれました。

これからも、市民の「やってみたい」を起点に、市民とともに「どうやったらできるか」を一緒に考え、実行していける図書館でありたいと思っています。

【真庭市立中央図書館　館長　西川　正】



浅口市立図書館　巡回防災展示

浅口市立図書館では、例年夏季にパネル展示を実施していますが、令和 4 年度は防災をテーマとして取り上げました。

これは、中国地方に甚大な被害をもたらした西日本豪雨（平成 30 年 7 月豪雨）をきっかけとして、企画されたものです。

浅口市は、元々、中国山地と四国に挟まれ、穏やかな気候に恵まれ、雨も少なく台風の影響も比較的受けにくい土地柄ではありました。しかし、その中で突如発生した西日本豪雨は、市民に大きな衝撃を与え、身近な脅威になりつつある災害や災害から身を守ることに対する意識を高めることとなりました。

そういった社会情勢の中で実施されたのが、夏季特別展示「いざ、防災！～『もしも』に備える～」です。



［館内展示：正面玄関前］

展示期間は、来館者が増える夏休みから災害が発生しやすい 9 月までとし、鴨方図書館では令和 4 年 7 月 20 日から 9 月 29 日の約 2 ヶ月、翌年 7 月 19 日から 8 月 30 日の間を寄島図書館、9 月 1 日から 9 月 30 日の間を金光さつき図書館に巡回して、市民に浅口市の災害の歴史やその恐ろしさ、日頃から防災に関心をもつことの大切さを訴えました。展示は各図書館の構造を利用して実施しました。

特に、鴨方図書館では、パネル展示「災害の歴史」や被害を想定したハザードマップ、災害時に利用できる市内の公衆電話地図の掲示に加えて、吹抜けの壁に洪水時の水深を表示し、館全体の床を利用して防災力診断を設置するなど楽しみながら防災について学ぶことができる展示を行いました。

また、市防災担当部局の協力を得て、備蓄品などの災害に対する備えや身近なもので作った防災グッズのサンプル展示、親子で学ぶ防災の本や災害をテーマにした本の紹介など、限られたスペースを有効に活用しつつ図書館ならではの視点で災害や防災についての紹介を行いました。



［鴨方図書館の体験型展示］

各図書館では、夏休み期間だったこともあり、話し合いながら観覧する家族連れも多く見られました。

近年、全国的にも思わぬ災害が大きな被害をもたらしています。尊い命と財産を守るためには、市民のみなさんの協力が必要です。

この展示をとおして市民の防災意識の向上に役立てたことは、市の「知的インフラ」である図書館として意義のあったことだと考えます。

【浅口市立鴨方図書館　中嶋　利恵】

里庄町ゆかりのコーナー新設

里庄町立図書館では今年 4 月に「里庄町ゆかりのコーナー」を新設しました。このコーナーには、里庄町出身の方や、里庄町在住の方の作品集、また、町内の企業を紹介している本を置いています。さらに、里庄町出身のアーティストの方々の CD や DVD、特集が組まれた雑誌なども置いています。

■新設のきっかけ

このコーナーを作ったきっかけとなったのは、町在住のＡＩＫＯ（あいこ）さんが作られて図書館に寄贈していただいた『あいのうた』という本です。この本は、美しく幻想的な花の写真と温かいポエムで構成されたフォトブックで、「第 57 回富士フィルムフォトコンテストフォトブック部門審査員特別賞」を受賞しています。

この本をきっかけに、町出身者の著作物を調べたときに、本を書いた人や、作品を発表した人が多いことがわかり、一か所に集めて利用者の方にも周知し応援していただければと思い、このコーナーを作りました。

■どんな資料がある？

図書は 20 冊、視聴覚資料は 36 点を集め、ほとんどが館外貸出可能です。

町出身のイラストレーター山中愛さんや、作家として活躍されている平野あおさん、町内出身の税理士 齋藤洋祐さんの共著作本や町内の企業「AKASEGROUP 株式会社」の代表取締役社長が書いた本、高精度な工作機械で有名な「安田工業株式会社」を紹介した本などバラエティー豊かです。藤井風さんが特集された雑誌や藤井風さんの楽曲の楽譜も人気です。

■視聴覚資料は？

ミュージシャンの藤井風さん、藤井空さん、千里さんの CD、ウクレレ漫談のぴろきさんの DVD を集め、貸出しも順調です。町外から来られているお客様も見受けられます。

■大変だったことは？

コーナーに資料を置くにあたって著者の方に連絡を取り許可を得ました。中には、許可が取れず、泣く泣く展示を見送った本もあります。多くの方にご覧いただきたいのと同時に著者の方の意思を尊重しながらコーナーを作ることに苦労しました。

■これから

今後もコーナーの充実を図るにあたり里庄町ゆかりの方を探したり、資料の収集などを行いたいです。また、著者の方を招いての講演会など来館者と交流ができるようなイベントの企画を考えていきたいです。





［里庄町ゆかりのコーナー］

【里庄町立図書館　小野　礼子】

すべての子どもたちに読書の楽しさを！

文字を読むことが難しい、文字や絵を見ることが難しい、本を持ったりページをめくったりすることが難しい――。こうした理由から、一般的な本の形では読書が困難な人がいます。そうした人の「読みたい」という思いに応えるため、令和元年には「読書バリアフリー法」が成立し、障害の有無にかかわらず、誰もが読書を楽しめる環境が整えられてきました。こうした流れの中で、スウェーデンで生まれた「りんごの棚」という取組が、近年、日本各地の図書館に広がっています。

岡山県立図書館でも、令和８年２月末、１階児童資料コーナーに子ども向けのバリアフリー図書を集めた「りんごの棚」を設置しました。大きなりんごの木を目印に、さまざまな「読書のカタチ」を提案しています。

大きな文字で読みやすい「大活字本」は、目が見えにくい人のほか、文字の見え方に違いがある人（ディスレクシアのある人）にもおすすめです。写真やイラスト、ピクトグラムなどを使い、やさしい言葉で内容を伝える「LL ブック（やさしく読める本）」は、日本語を母語としない人にも読みやすい本です。そのほか、いろいろな素材でできた絵や文字を触ってお話を楽しむ「さわる絵本」、点字だけでなく、さし絵にも凹凸をつけ、指で触って楽しめるよう工夫された「点字つきの本」、日本語と外国語を併記した「多言語の本」なども並べています。「布の絵本」は、布地やフェルト、ファスナー、ボタンなどを使い、手で触って楽しめる絵本です。既製品のほか、当館のボランティアが製作した作品もあります。さらに、手話や点字について学べる本や、障害がある人など、さまざまな立場の人について知るための本も置いています。資料には、目印としてりんごマークのラベルを貼り、カテゴリごとに配架しています。そのため、初めて来た方にも分かりやすく、資料が探しやすいと好評です。

また、資料だけでなく読書をサポートする道具も用意しています。「リーディングトラッカー」は、読みたい行だけに意識を向けやすくするための読書補助具です。既製品のほか、当館では、スリット（文字が見える窓）の幅が 6mm、7mm、12mm のものを作製しました。

現在、りんごの棚はさまざまな方に利用されています。特に、さわる絵本や布の絵本は、設置前と比べて利用が増えています。これまで知らなかった本の楽しみ方に出会うきっかけにもなっているようです。

りんごの棚は、特定の子どもたちだけのための棚ではありません。障害の有無にかかわらず、すべての子どもたちが、自分に合った方法で楽しめるように、読書の選択肢を増やし、一人ひとりの「読みたい」に応える取組です。「りんごの棚」の設置を検討している図書館の方や、子どもたちのサポートを行っている方は、岡山県立図書館までぜひご相談ください。



［りんごの棚のチラシ］



［岡山県立図書館のりんごの棚］

【岡山県立図書館　小櫻　美樹】

大学図書館とは？ 岡山理科大学図書館編

大学図書館って、公共図書館と何がちがうのか、どういうところなのかを書くように求められ、今回執筆することになりました。

大学図書館の利用対象者は、学生・教員・職員それに一般の市民の方ですが、主に学生の学習支援と教員の研究支援が、サービスの柱となります。

公共図書館では、自習に来る学生・生徒は歓迎されない（？）かもしれませんが、大学図書館では自習し放題の環境整備が必要となります。

資料の貸出については、公共図書館と何ら変わるところはありませんが、蔵書構成が大きく異なると思います。もちろん、図書も重要な資料ですが、それ以上に学術雑誌（いわゆるジャーナル）が重要となり、またそれに掲載されている論文の情報を検索するための論文情報データベースも重要となります。岡山理科大学の場合、ジャーナルとデータベースで資料費の約 8 割を占めています。このあたりは、他の大学も同様と思われ、大学図書館の特色ではないかと思います。

また、所蔵していないジャーナルも多く、文献複写物の取り寄せなどの ILL 業務も閲覧と同様重要なサービスの一つです。ジャーナルの話が続きますが、今では外国雑誌のほとんどがオンラインの電子ジャーナルとなっており、ある意味蔵書スペースの圧迫問題については、雑誌においてはなくなってきています。

図書についても、電子ブックの取り扱いが増えてきており、本学でも約 13,000 点が利用可能です。取り扱う資料の電子化の進展は、おそらく大学図書館の方が顕著ではないかと思います。

また、ほとんどの大学図書館で大学の紀要・研究報告や教員の論文をネット上で保存・公開する機関リポジトリを運営しており、この点も公共図書館にない業務となっていると思います。

【岡山理科大学図書館　林　成吾】

岡山大学 図書館・公共知共創機構 発足から 1 年を振り返る

岡山大学は、2025 年 10 月に「図書館・公共知共創機構」を新設しました。図書館は機構の下に置かれ、大学本部の社会連携担当部署職員を加えて事務組織を再編しました。さらに、学内で社会連携に深く関わってきた教員 3 名を迎え、図書館内に「公共知共創オフィス」を新設しました。機構発足からの 1 年を振り返り、現状とともに簡単にご紹介します。

1. 社会連携

岡山県内の自治体や企業と岡山大学が連携する「おかやま円卓会議」などの事務局担当、教員 3 名の活動支援などの新たな業務をとおして、学外の方々と一緒に仕事をする機会が格段に増え、当館にとって非常に大きな良い刺激となっています。図書館の外に出て大学や地域とともに歩み、貢献することの重要性を日々実感しています。

2. サービスの充実

図書館サービスの充実にも職員一同、日々邁進しています。機構発足後 1 年の間に、本学学生向け個室予約のオンライン化（2026 年 3 月）、大型プリンターやブックスキャナーを備える電子化スタジオの本格稼働（同 5 月）、学内者向けの展示スペース貸出開始（同 6 月）などを実施しました。また、学内研究者の研究成果オープンアクセス化促進のため、論文公開を費用やシステム面で支援し、大学の研究成果が社会で活用される環境の整備を継続しています。このほか、知好楽セミナーを拡大して「公共知共創フォーラム知好楽」に再編し、学内外への学びの機会を提供する機能を強化しました。

岡山大学図書館は、これからも県内の図書館をはじめとする地域の皆様への貢献を目指して活動していきます。

【岡山大学図書館　佐藤　千春】

美咲町立図書館のキャラクター紹介！

美咲町立図書館では令和 5 年 5 月に登場したマスコットキャラクター「黄福戦隊ミサキング」が活躍していますが、令和 7 年度に新たな仲間を増やそう！ということで、図書館職員で考えたキャラクターの名前募集をすることにしました。「ミサキング」との共通点を残しつつ、美咲町らしくて皆さんに愛されるようなキャラクター作りを心掛けました。名前を公募したところ、32 点の応募があり、最終的には美咲町在住の小学 3 年生(当時)が考えてくれた「みさっピ」に決定しました。これから大活躍してくれることを期待しています！



【美咲町立中央図書館　山本 佳苗】

岡山県立図書館 児童資料部門マスコットキャラクター「ヨムヨム」



［ヨムヨム］

「ヨムヨム」は岡山県立図書館の児童資料部門マスコットキャラクターです。子どもたちがたくさん本を読み、大きな夢や希望を持てる人に育ってほしいという願いを込めて名付けられました。桃をモチーフとしたキャラクターで、県立図書館の SNS で情報や魅力を発信したり、イベントに登場して来館者と直接触れ合うなど、様々な場面で活躍しています。ぜひ会いに来てください。　【岡山県立図書館　宗定　志織】

県図協セミナー(第１回)に参加して

「図書館における問題行動－カスタマーハラスメント対応を中心に－」

講師：千　錫烈　氏　（関東学院大学　教授）

期日：令和 8 年 6 月 22 日（金）参加者：108 名

日々、利用者への対応や災害への備えなどに悩むことも多く、図書館員共通の課題を解決するヒントが見つかればと思い、受講しました。講師の千氏は、図書館での勤務経験もあり、複数の自治体の図書館運営にも深く関わられている現場の目線を大切にされている方です。最近は、全国の図書館で「安心」「安全」が脅かされるような出来事も起きており、カスタマーハラスメント（以下、カスハラ）への組織的な備えがとても大切になっています。

なかでも、すぐに実践できる具体的な対応方法のお話は、とても心に残りました。不満を抱いている利用者に対しても、まずは落ち着いてプロとしての姿勢で向き合うこと。日頃の「こんにちは」という挨拶がトラブルを防ぐ壁になることや、館内掲示等には「できません」といった否定の言葉を使わない工夫など、丁寧なホスピタリティの大切さを学びました。相手の思いをメモに書留めて寄り添う姿勢を示すことも、解決への大切な一歩になります。

カスハラの判断は難しいものですが、他の方の利用や職員の仕事をどれだけ妨げているかが目安になるとのこと。グレーゾーンな事例も多いため、一人で抱え込まず、職場でのこまめな報告やマニュアル作りをみんなで進めていくことが心強い支えになると感じました。

利用者からいただく苦情は、よりよい図書館へと生まれ変わるきっかけでもあります。困った事案とも上手に向き合いながら、誰もが安心・安全・快適に過ごせる優しい図書館を目指して、一歩ずつ努力を重ねていきたいと思います。

【倉敷市立児島図書館　多田　千江子】

お知らせ

■理事会・定期総会

令和８年度理事会を６月５日に、定期総会を６月22 日に開催しました。当日資料および議事録は協会ホームページで公開しています。

【令和８年度役員（敬称・役職略）】

会　長	（施）	岡山県立図書館	小林　伸明
副会長	（施）	岡山市立中央図書館	菅野　啓子
〃	（施）	岡山大学図書館	鶴田　健二
理　事	（施）	倉敷市立中央図書館	笠井　幸雄
〃	（施）	総社市図書館	高杉　整二
〃	（施）	倉敷市立短期大学附属図書館	小久保　圭一郎
〃	（施）	金光図書館	高橋　浩一郎
〃	（個）	学校司書	井上　真紀子
〃	（個）	青年図書館員研修会	佐藤　賢二
〃	（個）	ＪＬＡ代議員	本山　雅一
監　事	（施）	津山市立図書館	菊入　典子
〃	（施）	早島町立図書館	丸山　桂子
参　与		岡山県教育庁生涯学習課	宮森　久彰

〈※（施）施設会員、（個）個人会員の略〉

■本年度の研修

○県図協セミナー（第１回）　６月 22 日
「図書館における問題行動―カスタマーハラスメント対応を中心に―」
講師：千　錫烈氏（関東学院大学　教授）
参加者：108 名

○県図協セミナー（第２回）　７月 28 日
「本の修理の紹介 etc」
講師：亀山　寛嗣氏（大学製本所）
参加者：87 名

○県図協セミナー（第３回）　８月 28 日
「ネットと生成 AI の時代に、なぜ読書？なぜ図書館？？？～児童・生徒・市民が未来を切り拓くための探究学習支援～」
講師：梅澤　貴典氏（中央大学　職員）
参加者：32 名

○教養講座　11 月７日
「プラスの循環をもたらすウィキペディアタウンのつくり方」
講師：伊達　深雪氏（京都府立丹後緑風高等学校）
会場：岡山県立図書館

○県図協セミナー（第４回）　１月 29 日
「書店との連携」（仮）
講師：田口　幹人氏（合同会社未来読書研究所共同代表）
会場：岡山県立図書館

■令和８年度企画委員

委員長	水田	菜摘	（岡山県立図書館）
副委員長	山村	隼斗	（岡山市立幸町図書館）
委　員	原田	栄一	（倉敷市立真備図書館）
〃	中嶋	利恵	（浅口市立鴨方図書館）
〃	赤木	郁子	（総社市図書館）
〃	小野	礼子	（里庄町立図書館）
〃	松原	文音	（吉備中央町かもがわ図書館）
〃	川島	和美	（美作大学図書館）
〃	林	成吾	（岡山理科大学図書館）

■現在、募集中！

○個人会員が企画実施する研修事業に対し助成する「令和８年度スキル向上応援事業」を募集しています。ぜひご応募ください。

○研修参加助成事業による令和８年度の派遣者を募集しています。ぜひご活用ください。

○令和８年度研究奨励金の交付申請者も併せて募集しています。積極的なご応募をお待ちしています。募集の詳細は、協会ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

［二次元コードからもアクセスできます］

令和８年９月 30 日発行
〒700-0823　岡山市北区丸の内２－６－30
岡山県立図書館　図書館振興課内
岡山県図書館協会　会長　小林　伸明
TEL：086－224－1269